【実習先：滋賀県近江八幡市　八幡酒蔵工房】　　報告：内田歩美

第５章 退職後の居場所づくりを契機とした学習活動による伝統文化・食・コミュニティづくり

ー八幡酒蔵工房「いまさかプロジェクト」のおやじたちから学ぶー

キーワード　定年退職　おやじ連　居場所づくり　地域活性

八幡山から望む琵琶湖と田園

おやじ達の活動によってよみがえったまちのシンボル八幡堀

地域紹介

近江八幡市は滋賀県のほぼ中央、琵琶湖の東側に位置しています。総面積は 177.45km² で、うち琵琶湖は 76.03km² です。

市内の西の湖は琵琶湖の内湖でヨシというイネ科の多年草の群生地となっており琵琶湖八景の一つとして名高い。また、重要伝統的建造物群保存地区として指定されており、風光明媚な景観を楽しむ観光客が後を絶ちません。

実習概要

滋賀県近江八幡市にて定年退職後の「おやじたち」の居場所づくりと地域活性の関わりについて学ぶ実習を行いました。「おやじ連」と呼ばれるおやじたちの実際の活動の見学させてもらい、集まるに至った経緯を知ることができました。

実習中はおやじたちのコーディネーター（意外にもおやじたちのコーディネーターは女性です）スタッフの地域事務所に住み込みをさせてもらい、新たなプロジェクトの申請書の作成のお手伝いや地域フォーラムの準備活動に携わらせていただいたことも貴重な経験となりました。

地域事務所にておやじ連のコーディネーター小関さん（左手前）とともにフォーラム準備

実習のプロセス

準備

- 近江八幡市の概要調べ（文献・ウェブサイト）
- おやじ連・八幡酒蔵工房の情報収集
- コーディネーター団体（八幡酒蔵工房）との連絡やりとり、実習内容等の調整

実習

- おやじ連活動の見学･体験（里山保全、清掃活動、水郷環境を活かしたカヌー等）
- おやじたちへのヒアリング取材
- コーディネーターのお手伝い（申請書作成・フォーラム準備）

フォーラムへの参加・プレゼン

- 近江八幡「地域資源活用フォーラム」への参加
- 実習結果の報告・作成パンフレットの紹介

取りまとめ･報告

- 豊島区生涯学習施設での展示報告
- 大正大学「鴨台際」でのプレゼンテーション

実習先が主催で開催した地域資源活用フォーラムの様子（市内の伝統建築物を会場にして開かれた）

１．背景－ジェンダー論から「おやじ」たちの生き様に関心―

滋賀県近江八幡市のおやじ連にお世話になるに至ったきっかけは、大学で受けたジェンダー論の講義です。そこで学んだことは、定年退職後のお父さんたちには家にも地域にも居場所がなく過ごす場所といえば、ショッピングモールのベンチや図書館など、ということでした。私はこの話を聞いてとても驚きました。それというのも、私の祖父は家にも地域にも居場所がある人間だったからです。例えば家にいる時は畑仕事に精を出し、祖母とはもちろんのこと孫とも楽しそうに作業をしていました。外ではゲートボールや菊作りをたしなみ、仲間たちと毎週会っていました。残念ながら自らのことを進んで語る人ではなかったので詳しい話を聞くことはありませんでしたが、毎日が楽しいのは見ているだけで分かったものです。それが普通だと考えていた私にとってはこの授業内容は衝撃的でした。環境や地域によってこれほどまでに過ごし方が変わるのは驚きだったのです。

そういった授業を受けた後に滋賀県近江八幡市に存在する「おやじ連」を生涯学習実習論で知ることになりました。おやじ連の話を聞くと、そこの人々は私の祖父と同じように地域に居場所があるのだと感じました。そしてただ居場所があるだけでなく、自分たちから率先して新しいことを始めたり地域の活性化に繋がることをしていたりと様々な活動をしていると知り、私は興味を持ちました。今回の実習でお世話になれたことは私にとって貴重な体験となりました。

２．事前調査と課題の設定

（１）事前調査

事前に調査したことはおやじ連の実際の活動です。インターネットの HP やおやじ連の代表者のフェイスブックを確認しました。そこには生き生きと活動している姿が確認できました。清掃活動や料理教室、カヌー体験、竹細工を子供に経験させるワークショップなどの幅広い活動内容が展開されていることが分かりました。HP 閲覧時点では、近江八幡を象徴する課題である竹林整備活動とかかわりの深いすでに竹細工関係はおこなわれていないことが残念でしたが、おやじ連では一つのことだけでなく多くのことに手を出していることが分かり、見応えがある場所ということが分かりました。

（２）課題設定と実習計画－親父たちが安定して活動できる環境を整える方法を考える－

事前調査をおこない私が気になったのはおやじ連のメンバーに加わるに至るための経緯や、実際にメンバーになった後の活動の幅です。ジェンダー論でも男の料理教室を区市町村で開催することがあるが、それ一回きりで終わってしまうことがほとんどであると聞き及んでいました。滋賀県のおやじ連でもそのようなことが起きているのではないだろうかと思ったのです。

そこで、私は「おやじたちが安定して活動できる環境を整える方法を考える」ということを実習課題として設定することにしました。この課題に取り組むことによって、定年退職後に安定した居場所が作り出せるようになり、そこから新たな学習が生まれるのではないかと考えました。定年退職後ということは多くの知識を持っているはずなので、それらを活用する場所を彼らに与えることにより、どの年代も学習できる場所が生まれるのではないか

と想定しました。

（３）準備－コミュニケーションと信頼関係構築の大切さ－

実習先に行く前の現地とのコミュニケーションはメールでおこないましたが、担当教員が先方と懇意であったということもあり、やりとりのほとんどを先生に頼りきってしまったところがあります。振り返ってみると先方のコーディネーターと直接やりとりをしたメールは、ほんの数通であいさつ程度の内容となってしまいました。

今回はこれまでの担当教員と先方で構築された信頼関係に支えられてどうにか実習に入れましたが、先方ときちんと実習内容を話し合い、コミュニケーションを深めていくことが大切だと感じます。

３．実習と実践内容

（１）日程と受け入れ先の活動概要

実習中は、おやじ連の活動に後ろからついていき、活動の観察とインタビューをおこないました。自分にもできそうな活動であれば一緒に参加させてもらいとても充実したものとなりました。

日程は次の通り。

1 日目）2015 年 9 月 7 日(月)　琵琶湖周辺の清掃活動の見学、近江八幡市探索(徒歩)
2 日目）2015 年 9 月 8 日(火)　主に屋敷の清掃作業の見学
3 日目）2015 年 9 月 9 日(水)　近江八幡市探索(車)
4 日目）2015 年 9 月 10 日(木)　グランドゴルフ、カヌー体験、近江八幡市探索(車)
5 日目）2015 年 9 月 11 日(金)　帰宅

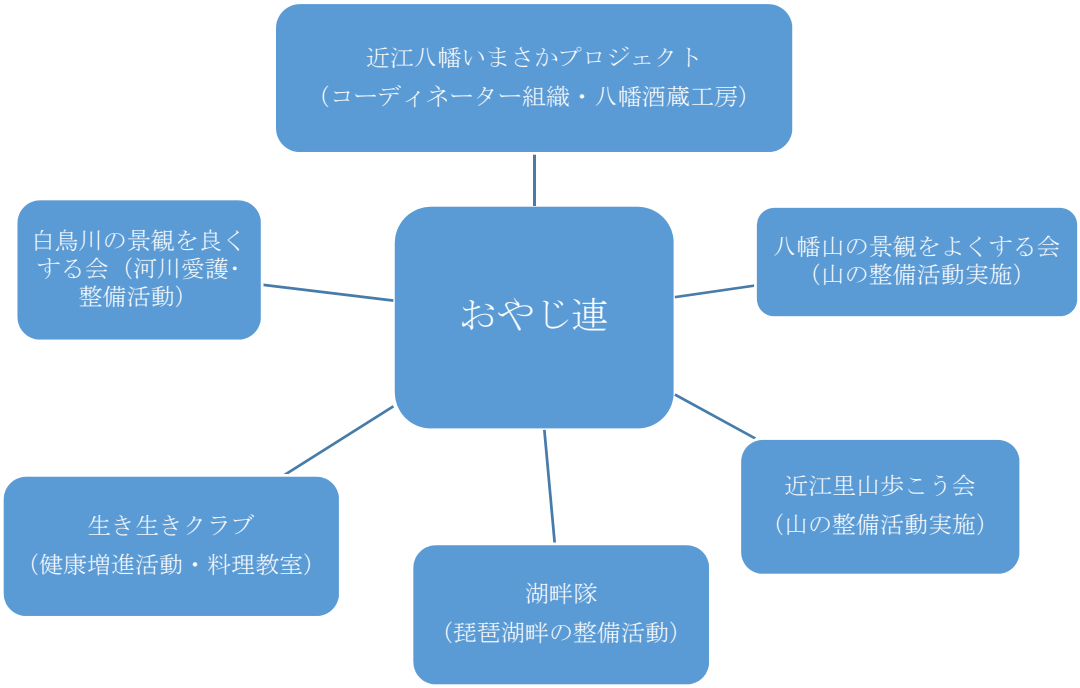


図１：おやじ連は全 26 団体からなりたっている。ここに表記したのは実習で関わりのあった一部団体のみ。

図１に見るとおりおやじたちは実に多様な活動を展開しています。琵琶湖周辺の草むしりなどの清掃活動や竹林整備などの地域のためになることもしていれば、カヌー体験やグランドゴルフなどの遊びもおこなっていました。しかし、彼らはどの活動も純粋に楽しんでいるため、特段に「地域のため」という考えで動いているわけではないということが分かります。

集まって何かをするきっかけになったのは市で開催された料理教室です。その回だけで終わらせるのではなく、積極的に集まる機会を設けたことでおやじ連としての活動となっていったようです。

おやじたちは自分たちが住んでいる地域の魅力を把握していることも特徴的です。おやじ達がもともとこの地元出身の人間ではないことが大きいのかもしれません。他の地域の人々と決定的に異なるところではないかと思います。魅力をしっかりと理解しているからこそ、どのようにアピールすれば良いのかも考えやすく行動しやすい。他所から来る人に対してとても寛大であることも彼らの強みだと感じました。

近江八幡市は琵琶湖が近く、湖畔から車で数十分の距離にあります。琵琶湖周辺はサイクリングロードも整備されているので、観光にはぴったりです。一方で竹林や山も多く整備が追い付いていない状態で、特に竹林の問題が課題となっています。なかなか理想的な環境に整えるのに四苦八苦されていますが、おやじ連の構成団体の一つ八幡山の景観をよくする会が一生懸命整備活動に取り組んでいます。その他にも歴史的建造物を保管することに積極的に取り組んでいます。街並みは小京都のようでとても綺麗です。道路も碁盤の目のようになっており、まさに小京都といった趣を感じさせます。

（２）おやじの活動（清掃編）－楽しむことが一番の目的－

最初に出会ったおやじたちは清掃活動に力を入れていました。滋賀県の象徴ともいえる琵琶湖周辺を月に２回の頻度で綺麗にしているとのことです。不法投棄されている大きなゴミからやコンビニ関係の小さなゴミまで関係なく大量に拾っていました。また、ゴミ拾いだけでなく草木の除去も彼らはおこなっており、いわゆる雑草や葛の蔓などを綺麗にして景観を損なわないように活動をしていました。夏には綺麗になった湖畔でバーベキューも楽しめるようで、観光客などがやってくるのでその人たちの良い思い出になってほしいと話していたのも印象的でした。

別のおやじたちはとある家屋敷の庭を綺麗にしていました。そこの屋敷の庭である催し物をするらしく、それを円滑に進めるために草むしりをしているのだと話していました。ここでもおやじたちにお話をうかがうことができました。

おやじ「電動草刈機を使ってる連中ほぼいないの気づいた？」
私　　「そいうえばそうですね」
おやじ「理由分かる？」
私　　「え？　石がたくさんあるからとか？」
おやじ「残念。電動草刈機はさ、作業がすぐに終わっちゃうんだよ。俺らは暇を潰すために作業してるからすぐに終わりたくないの。これが使わない理由。お姉ちゃんまだまだ分かってないねー！」
私　　「なるほど！」

ここで作業をしていたおやじたちは自分たちのために清掃活動をしているとのことです。せっかくたくさんある時間なのだから有効に使いたいが、会社を定年退職した彼らは持て余しがちだとのこと。それを解決するための作業なので、すぐに終わらせるわけにはいかないというのです。

写真１：桜の木に絡む蔓の除去

写真２：庭の手入れ

（３）おやじの活動（楽しむ編）－実は学習でもある－

私はこの実習でカヌーを体験することができました。そこで私が見たものは自分よりも年下に指導されるおやじの姿です。こうした方が良いですよ、こんな風にしてください、といった言葉を真っ向から受け止め、自分に吸収しています。知識や技術のある人の言葉を否定的に受け取ることをしないのです。年輩者にありがちな自分が年下に何かを言われたくない、ということはなかったのがとても印象的でした。

おやじたちはとても勉強家です。自分たちが知らないことを率先して聞いて知識を集めています。おやじたちはとても優しく、私のために車を出してくれて近江八幡市を案内してくれました。その際に彼らは自分たちも行ったことのない場所に連れていってくれて、多くの新たな情報を得ることができました。実のところ得たのは私ではなく連れていってくれたおやじたちなのかもしれません。彼らは気になることがあるとすぐにその場で作業している人たちに質問をしていました。その姿を見ていると彼らがいろいろな知識を身に付けている理由が分かった気がします。

写真３：カヌーを体験するおやじたち

（４）街並み

おやじたちの後ろを着いていっただけではなく、自分の足でも街を歩きました。そこには歴史的建造物が立ち並んでいます。私が訪れたところは、そういった建物を保管して景観を保存することを目的としています。私はその街並みを歩いて回りました。古民家をそのまま

残してある様子は綺麗で壮観でした。その他にもメンソレータムの会社や綺麗な水路、瓦ミュージアム、八幡山などがあり観光地としてもすぐれていることが分かります。

写真４歴史的景観を保った街並み

（５）パンフレットの手直し－市民企画フォーラムの準備お手伝い－

コーディネーターである小関さんから10月にフォーラムを開催すると言う話を聞きました。パンフレットまで作っており準備は着々と進んでいるようです。そこで小関さんは作成したパンフレットを私に見せてくれました。まだ修正が必要な箇所が散見される段階で、出版･編集を専攻している私としても役に立てればと考え、夕方から夜にかけてデザインの修正をお手伝いさせていただきました。

（６）市民フォーラムへの参加と発表

実習が終わった後も縁があり、「いまさかプロジェクト」が主催のフォーラムに担当教員と共に参加しました。「地域資源」がテーマとなっており、名だたる方々が近江八幡市の地域資源とそれの活用法などを提案していました。地域に有り余っている竹の活用法や、人の住んでいない古民家の活用法を紹介していました。その他にもNPO活動との関わり方なども提案している人がおり、市民活動を考える上で大変参考になりました。学生枠として私もフォーラム内で発表をさせてもらいました。「地域資源」としてのおやじ連の取り組みに着目して、今後どのように活動を展開していくことが出来るか、もしも学生として関わらせていただけるとすれば、どのような形で参加できるかということを考えました。パンフレットを作成したり、資料用のパワーポイントを完成させたりと時間に追われてしまい十分な発表内容を準備できなかったかもしれませんが。しかし私にとっては新たな視点で近江八幡市を見るきっかけになり、貴重な経験となりました。また、実際に行動を起こしているおやじ連の方々で、前向きにとらえてくださる人が多かった印象があります。近江八幡市がさらに素晴らしい地域になればと願っています。

写真 5　地域資源活用フォーラムフォーラムの様子

４．実習を通じて感じたこと

（１）地域の魅力に意識的なおやじたち

近江八幡のおやじ連に加盟しているおやじたちは言うなれば他所者といった側面があります。これは一見すると意外に思えるかもしれませんが納得もできることでもあります。おやじたちは近江八幡市の長所をしっかりと把握しておられました。これは私がかかわらせていただいた他の地域では見ることのなかった傾向のように思います。一般的に住民は自分たちの住んでいる地域の魅力を把握しにくいのではないでしょうか。よほど意識していなければ、外から見れば素晴らしい地域の魅力も、長年住んでいると当たり前に見えてしまうことが多いということが原因の一つだと思います。しかし、近江八幡市のおやじたちにはその傾向がありませんでした。私があまりに地域についての基礎知識がなかったことも理由の一つだとは思いますが、活動している地域について自信を持って生き生きと一から十までいろいろなことを教えてくれたことが印象的でした。

（２）自分たちの楽しみが地域貢献へつながる

おやじ連が 26 の団体からできており、それの総称だと知った時は驚きました。その 26 団体は各々が好きなことをしており、気が付いたら地域活性化に繋がっているところもあるといった感じのようです。おやじたちの行動力は本当に目に見張るものがあります。人が集まるようになった最初のきっかけは、市で開催された定年退職後の男性を対象とした教室ですが、その後も率先して集まろうと声かけがおこなわれ、そこから輪が広がり今のような状態になったというのですから。おやじたちは地域の活性に繋がるからあれをやろう、これをやろうと考えているのではなく、自分たちが楽しみたいから、ということを原動力に活動をしています。しかし結果として地域活性化に直結しているのです。

（３）コーディネーターの機能と役割－資金調達の苦労－

今回受け入れ先で様々お世話をしていただいたコーディネーターの小関さんについても触れておきたいと思います。彼女は必ずしも専門的なことを学んでいるというわけではないとのことですが、このコーディネーターはなかなか大変な仕事であることがよくわかりました。いくら自分たちのための活動だと言っても基礎となる資金が必要となります。彼女はいまさかプロジェクトのおやじたちが円滑に行動できるように助成金の申請や、活動を市民に知ってもらうためにテレビへの放映交渉などを行っていました。助成金の申請に関しては申請先によって目的もようとも異なり、また採択基準も変わるようです。同じ内容でも通るところと通らないところがあるとのことで一筋縄ではいかないと話してくれました。こうした女性コーディネーターが、おやじ連のために頑張っている姿はとても素晴らしいものと感じました。

（４）地域課題への対応－竹林問題から－

実習は基本的に外に出て地域の様子を見て回りました。しかし、雨が降るとそうできないことも多く、雨が降ることによって予定されていたものができないといったこともありました。私はそれが原因で見に行けなかった活動があります。竹林整備です。今放置竹林の問題が他の地域でも存在していますが、近江八幡ではきちんと整備をおこなっている場所が

あり、その様子を見てインタビューをしたかったが雨の影響でそれができませんでした。気軽に再調査に行ける距離ではないので、それが心残りです。しかし、整備中の様子は見ることが出来ませんでしたが、実際の活動場所は見せてもらうことができたので、そこからいろいろと考えるきっかけを与えていただいたことに感謝しています。

５．まとめ

（１）文化祭での報告から

実習の結果を取りまとめて文化祭で報告をしました。近江八幡の様子をパネルにして張り出したり、実習を通じて作成したパンフレットや、市民フォーラムで利用したパンフレットを置いたりと、その場所を知らない人たちにアピールするために工夫をしました。もともと興味があり立ち寄ってくれた人から、なんとなく立ち寄ってくれた人まで理由は様々でしたが、少なからず興味を持ってくれた人が数多くあり、うれしいことでした。そこからさらに輪が広がり、私が実習に行ったことが近江八幡のおやじ連の活動に何らかのお役に立てばと願っています。

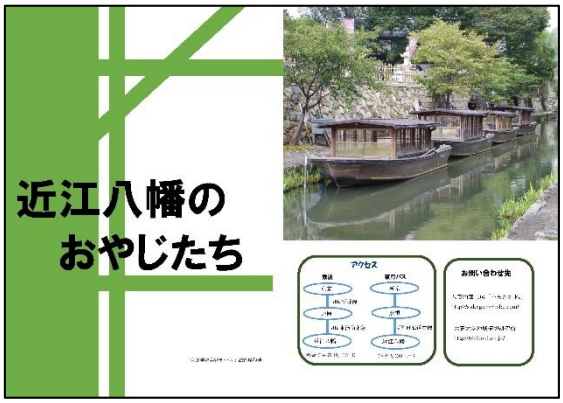


図２：実習を通じて作成したおやじ連の活動パンフレット

（２）今後の課題と展望－学びと活動がもたらす様々な社会的側面－

今、いまさかプロジェクトは、新たな取り組みを始めています。それは若者とおやじと仕事を繋げることであったり、古民家を改造して塾を始めることであったり、いずれにせよ一回きりで終わらない活動を模索しています。しかし、資金調達の面で大きな課題を抱えています。協力してくれる企業はあるもののそれを受け取るための査定が大変だとコーディネーターも語っていました。助成金制度を活用しようとしても企業によっては申請の基準が異なるので、同じ内容でも通らない可能性もあるようです。

また、他には周りの社会的な活動環境も整えていく必要があるようです。古民家を改造してとなると近隣住民が良い顔をしないというデメリットが生まれることもあるとのこと。今までは静かに暮らしていたのにも関わらず、そこが活動拠点になることで多くの人が出入りすることになる。それを受け入れてくれる人ばかりではないというのです。現状でもいまさかプロジェクトの活動地点である八幡酒蔵工房の出入りでさえ嫌な顔をしている人もいるとのこと。そのため、新たな活動を始めた場合にさらに大きな問題が起こる可能性もあ

り得るわけで、その解決方法を考えておくことが大事だということです。

地域における学びと活動が社会的側面を配慮に入れながら取組んでいかなければならないということを認識させられました。おやじたちはコーディネーターと共にこれらの問題を一つ一つ解決して、さらなる取り組みへと日々挑戦しているのです。

近江八幡の
おやじたち

アクセス

鉄道

東京
JR 新幹線
米原
JR 東海道本線
近江八幡

（料金/自由席 12,100 円）

夜行バス

東京
彦根
JR 東海道本線
近江八幡

（料金 5,400 円～）

お問い合わせ先

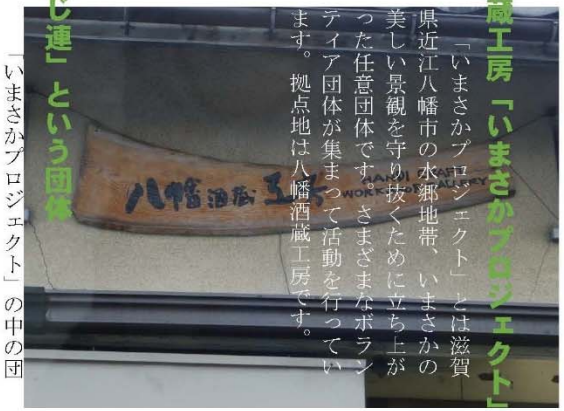
八万酒蔵工房「いまさか PJ」
http://sakagura-kobo.com/

大正大学地域構想研究所
http://chikouken.jp/

生涯学習実習チーム：滋賀県担当

八幡酒蔵工房「いまさかプロジェクト」

「いまさかプロジェクト」とは滋賀県近江八幡市の水郷地帯、いまさかの美しい景観を守り抜くために立ち上がった任意団体です。さまざまなボランティア団体が集まって活動を行っています。拠点地は八幡酒蔵工房です。



「おやじ連」という団体

「いまさかプロジェクト」の中の団体の一つに「おやじ連」と呼ばれるものがあります。この団体のメンバーは定年退職を迎えたおやじたちばかりです。「おやじ連」とは総称で、本当はいくつもの団体があります。

おやじ連の活動はさまざま。清掃作業から料理教室、カヌー教室など枠にとらわれない活動をしています。

「おやじ連」はどうやってできたの？

集まるきっかけとなったのは市で開催された居場所づくりの講座。男性たちはその講座だけでは終わらせず、自分たちで再度集まりだしました。そういった人たちが増え、気づいたら団体として動き出したのです。

「おやじ連」のメンバーはどんな人？

メンバーはごくごく普通の一般人ばかりです。ただ、ちょっと有名な会社に勤めていた人が多いとの噂もあります。地元の人よりも他所からの人がほとんどで、そのためか近江八幡の魅力を知っている人ばかり。

皆さん勉強熱心で、「おやじ連」に加盟してから新しいことを始めた人も珍しくないのです。

「おやじ連」の活動

実際に彼らが何をしているのか、ごくごく一部ですが写真付きで紹介します。

◁琵琶湖周辺の清掃作業。
月に一度集まってキレイにする。
毎回25名前後でおこなう。

▷工房の階段下に収納を作っている。
ほぼ毎日、作業をしている。ちなみに彼は元大工ではない。

◁水郷を利用したカヌー体験。
小学生に教えることもある。